

第4回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

と き：令和6年10月21日(月) 午後7時～

ところ：瑞浪市役所西分庁舎2階入札室

次 第

1. あいさつ

2. 議事

(1) 前回の地域計画策定支援事業の評価等のまとめについて

1) 市民協働課より説明

2) まとめについての委員の意見交換

(2) 取組検証

子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業（生涯学習課）

1) 担当課より説明

2) 本事業に参加した市民へのインタビュー

3) 質疑応答

4) グループワーク

(3) 取組検証

企業・大学等との連携事業（シティプロモーション課・市民協働課）

1) 担当課より説明

2) 本事業に参加した市民へのインタビュー

3) 質疑応答

4) グループワーク

3. 閉会のことば

配 布 資 料

・次第

(別紙)

・瑞浪市市民まちづくり基本条例に基づく取組み計画及び評価表

資料 No. 1-1

・第2回グループワークまとめ①

資料 No. 1-2

・第2回グループワークまとめ②

資料 No. 1-3

・事前入力シート（生涯学習課）

資料 No. 2-1

・青少年育成市民会議だより23号

資料 No. 2-2

・事前入力シート（市民協働課）

資料 No. 3-1

・岐阜大学ワークショップ①

資料 No. 3-2

・岐阜大学ワークショップ②

資料 No. 3-3

・市民まちづくり会議 平山活動の現状

資料 No. 3-4

出 席 者

・出席委員

渡邊俊美委員 鈴木圭子委員 高野雅夫委員 後藤誠一委員 小倉弘次委員

足立弘文委員 板垣真裕美委員 本荘恵子委員 中山陽翠委員 石川敏美委員

小野由美委員

・事務局

正木英二（みずなみ未来部長） 奥谷ひとみ（市民協働課長）

中箴高弘（市民協働課まちづくり支援係長） 大高まりあ（市民協働課まちづくり支援係）

1. あいさつ

（渡邊会長よりあいさつ）

2. 議事

（1）前回の地域計画策定支援事業の評価等のまとめについて

1）市民協働課より説明

2）まとめについての委員の意見交換

（委員）10年計画ということだが、中間で見直しを行うのか。

（事務局）見直しについては、今は具体的な方針はありませんが、計画を実行に移す伴走支援を行っていきたいと考えている。部会制はやらされ感があるという意見もいただいております、やりたいことをやる組織となれば活性化につながると考える。この地域計画を基にまちづくり組織の活性化につながる取組を進めていく。

（2）取組検証

子ども及び若者のまちづくりへの参加促進事業（生涯学習課）

1）担当課より説明

生涯学習課より説明

2）本事業に参加した市民へのインタビュー

（事務局）この事業に参加された理由は

（市民）瑞浪市青少年育成市民会議の理事代表を務めている。会議の代表は市長である。市民会議では、中学生、高校生ボランティアとの清掃活動、「高校生と語る会」や文化祭での啓発活動などを行っている。

（事務局）参加された事業についての感想は。

（市民）小学生、中学生、高校生の皆さんは、将来の瑞浪市を背負って立つこれからのニューリーダーである。みんな本当に純粋である。主張大会で発表されている姿に本当に感動している。

（事務局）事業に参加されたことで、自身が変化したことはないか。

（市民）子どもたちから教わることがたくさんある。子どもは本当に無垢である。無限の力を持っている。大人は頭が固くなっているので、見習いたいと感じている。

（事務局）この事業の将来の展望は。

（市民）瑞浪市青少年育成市民会議は認知度が低いと感じている。子どもたちがすすく育ち、他市の方も瑞浪市に行きたいと思ってもらえるような環境を作ることが、私たち大人の務めだと思っている。その点に力を入れていきたい。

（事務局）今後、市に望むことは。

（市民）この令和の時代はいろいろな危険なことやSNSからすぐ犯罪に結びつく世の中である。子どもたちが住みやすい、安全な瑞浪市になるように、私たち大人全員が参加でき

る体制づくりをお願いしたい。

3) 質疑応答

(委員) 1点目、コミュニティスクールは、この取り組みには入っていないか。2点目、町民会議の現状はどのようなか。

(担当課) 1つ目のコミュニティスクールについて、ほとんどの活動がコミュニティスクールだと思っている。岐阜県のスローガンの一つに子供を核とした地域づくりというのがある。子供を中心とした活動で地域のいろんな立場の方が関わっている活動はコミュニティスクール、地域学校協働活動と定義をされている。中学生ボランティアは各地区で大活躍である。多くの団体から依頼があるので、ボランティア疲れもあり、学校側の調整が大変だという声を聴いている。今後、継続的にやっていただけるのか、行政としての検証が必要であると感じている。

(市民) 2点目の町民会議の現状について、瑞浪市青少年育成市民会議は、瑞浪地区・土岐地区は2名ずつ、5地区からは代表1名ずつで組織されている。町民会議（まちづくり組織）はつながっている。市民会議で決めた方向性、方針、具体的に決められた行事を地域へ伝え、町民会議で進めていただく。

(委員) 資料に記載があるように、自分が住む町に愛着を持てるようにするということは、とても大事なことだと思っている。稲津町羽広地区では、秋祭りがあり、毎年神輿を担ぐかどうか議論になる。神輿を担ぐには準備が大変で、毎年親御さんを対象に多数決をとる。今年は賛成が多く実施した。他地区で人材不足で行事の見直しを考えられているような情報はないか。

(市民) 自分の地区でも秋祭りの神輿の問題は毎年議論になるが、ほとんどの方が賛成にする。私の想いですが、子どものためにという思いや今まで先人が築き上げてきたことを大人の事情等でやめてしまうことはできないと思う。また、少子化で子どもがいないという問題もあるが、地区外に住んでいる子どもや孫を呼び寄せて、続ける努力をしている。

(担当課) 自身も保護者世代ということで、例えば、PTAや消防団活動等に対して、保護者世代が怖いと感じている気がしている。いろいろな活動に参加してみると楽しかったといわれるので、何か気軽に参加できる仕掛けがあると良い。地域の保護者が誘い合っ出てみるとか、お試し参加で、名前も連絡先も聞かずに誰でも参加できるような敷居を下げた方法など。地域の方が苦労してみえることは感じている。

(委員) 子どもたちのまちづくりへの参加について、参加する子どもたちやボランティアの子どもたちの意見をどのように拾い、反映させていく仕組みを取られているか。或いは、工夫されていることや子ども達がやってみたいということがあればどのように実現できるようにサポートしていくか。

(担当課) アンケートについては、中央公民館事業では取り切れていない現状がある。地区公民館ではしっかりフォローができていると聞いている。今後の課題として、しっかり意見を吸い上げるよう取り組んでいきたい。

(市民) ボランティアについては、正式なアンケートはないが、実際にボランティアの方々と話をすると、参加してよかったという意見を聞いている。中央公民館で行う主張大会でのボランティアや高校生と語る会の参加者では、立候補で参加する生徒が多い。ただ、

課題もあるため、意見を集約し、ボランティアの方が、少しでも参加しやすい環境づくりをしていきたい。

4) グループワーク

1 グループ

感想、特に評価すべき点

- ・中学生ボランティアで参加するのはすばらしい
- ・中学生ボランティアは素晴らしい
- ・中学生ボランティアの積極的参加（リピーター）
- ・中高生ボランティアの取入れが良い
- ・高校生と語る会が気になる
- ・各地域で年に数回イベントがあるところは良い
- ・大人の学びの場＝子どもの学びの場
- ・各地区で継続していること自体◎
- ・続いているそのことがすごい
- ・寺小屋の取り組みは良かったですが、人数制限があって参加できない子たちがいた
- ・夏休みを利用している（子どもの時間帯）

改善点や不足すること（市民側）

- ・各地区の特色ある公民館 まちづくりの活動を
- ・気軽に参加できるように

改善点や不足すること（行政側）

- ・育成市民会議はあて職では？
- ・ボランティアのアンケートは必ず取るべき 大切なヒントが！
- ・ボランティア集中の調整
- ・子どもの意見反映の場づくり
- ・コミュニティスクールへの予算措置
- ・中学生ボランティアはどうやって募集する？
- ・中学生ボランティアは何をやっている？
- ・人口の少ない地区ではボランティアが何度も要求されないのか？
- ・子どもの「やってみたい」応援！
- ・子どもの意見反映の場づくり
- ・ボランティア参加者のメリットになっているのか？ ウィンウィン
- ・お祭りにボランティアを地区でお願いしたが内容等が中学生にきちんと伝わっていない
- ・マニュアルがいる
- ・コミュニティスクールの取り組みも全面に出す
- ・主張大会はすばらしいが、言いつばなしでなくまち協や市役所へ提案したら？
- ・もっとアピール
- ・取り組みのPR不足

2 グループ

感想、特に評価すべき点

- ・多くのイベントを行っている

- ・中学生ボランティアに参加してもらっている
- ・中学生ボランティアは評価できる
- ・中学生ボランティアが確立されている
- ・ボランティアの参加率が高そう
- ・各地区の催し物が活発 具体的 土岐、瑞浪以外
- ・地域のお祭りは多くの人に参加している
- ・子どもは嬉しそうに参加している
- ・地区毎のお祭りはぜひ継続していただきたい

改善点や不足すること(市民側)

- ・土岐、瑞浪地区の活動がみえてこない
- ・市民がもっと協力
- ・未就学児 組に入っていない子が参加できない
- ・外国人との地域交流の設置が必要

改善点や不足すること(行政側)

- ・子どものやりたいイベントを反映できているのか
- ・行政としての生涯学習課の役割が明確でない
- ・公民館活動への支援はどうしているか
- ・コミスクの活動に対しての支援が不明確である
- ・各団体や組織への働きかけが弱い
- ・市としての活動後の子どもたちの意見の収集が必要
- ・ボランティアPR
- ・公民館行事 紙でなくSNS等のお知らせ
- ・夏のイベントが多い 夏は予定があり参加できない人もいるかも
- ・冬でも室内で行えることもあると思う
- ・同じ人ばかり参加するのではなく、多くの人々が平等に参加できるようにできると良い
- ・ボランティア活動を取りまとめる組織ができないか
- ・主張大会がマンネリ化していないか
- ・主張大会の市民へのPR不足を感じる
- ・小学生の最優秀賞があるとよい
- ・どのような周知方法？
- ・若者への参加促進がどうされているか(特に高校生以下)
- ・各地区の活動を知らせる手段は？

グループ分けの結果の意見まとめ

→継続的に子どもの教育にもなるよう中学生ボランティアを受け入れ、参加していただいている点は大変素晴らしく、評価できる。

しかし、市民側は地域での青少年育成の面から、もっと多くの市民が気軽に参画することや国籍や地域の枠を超えてのまちづくり活動への参画をしていくことが必要と考えられる。

また、行政側は単にボランティアとして中学生等を受け入れるだけでなく、中学生等のやってみたいこと、そしてそれが成長や学び、将来の地域の担い手の創出に繋げるといった、大きな目的意識をもった事業運営やボランティア調整をお願いしたい。そのためには、各取り組みの到達点を明確にし、共有しつつ、しっかりとPRして地域の方々に周知することが必要であ

る。

さらにはアンケート調査などをして、常に見直しをしながら、関係者すべてに明確なメリットが生まれるように取り組みの運営をお願いしたい。

(3) 取組検証

企業・大学等との連携事業（シティプロモーション課・市民協働課）

1) 担当課より説明

市民協働課より説明

2) 本事業に参加した市民へのインタビュー

(事務局) この事業に参加しようと思ったきっかけはどのようなか。

(市民) 自身が釜戸町平山地区の区長をしていた時期に、市民協働課と岐阜大学との連携事業を知り、ちょうどヤマカツという平山で活発な活動をしていこうとグループを立ち上げた時期と重なったため、参加させていただいた。ヤマカツとは、平山地区の任意のグループで、何も決まりごとの無いゆるい集まりで、毎月1回集まれる人で集まるというそれだけの集まりのことである。今日は自分が出席したが、特に代表者も決めていない。その時にやれる人でやっていくというグループである。岐阜大学との連携も市や町というレベルではなく小さい集まりでも良いと言われたのが、大きく背中を押していただいたと思っている。参加して3年目を迎えている状況である。

(事務局) 参加してからの感想はどのようなか。

(市民) 3年間続けてきたことが大変大きいと思っている。活動の中心となる学生さんの意向を尊重して、私たちは口を出さないことが良かったと感じている。大学との連携は、大変ハードルが高いと思ったが、お祭りにも参加していただき、委員会にも一緒に入っていたいており、コミュニケーションが取れたところが良かったと感じている。

(事務局) 本事業に参加したことで変化したことはないか。

(市民) 毎年、5人の大学生が来ていただき、いろんな話ができる。区民の中に楽しみにしていられ方がみえることも変化していると感じている。

(事務局) 今後の展望や思いはどのようなか。

(市民) 今年から平山地区を知っていただくために、Instagramを開設し情報発信に取り組んでいる。瑞浪市の一番東の端に位置しており、イベントには恵那市からの協力もある。人口も世帯数も減少し、空き家問題も発生しているため、中山間地の補助事業との連携も含め、関わる人が増えればと考えている。

(事務局) 瑞浪市に望むことはどのようなか。

(市民) 岐阜大学との連携を認めていただいたことに感謝申し上げる。特徴である住民の集まる最小単位での連携をしているところを少しでも広げていけたらと考えている。釜戸町内での区長会やまちづくり推進協議会のようなスケールではなかなかできないことができるというところを気づいていただき、他地区にも広げられる協力ができたらと思っている。

3) 質疑応答

(委員) 資料のポスターは、活用されているのか。

(市民) ポスターに掲載されている内容は、現実のものではなく、こうなったらいいなという夢の内容であるため、活用していない。今後、情報発信のツールとして活用していきたい

たい。

(委員) このプランの狙いは、外部の人が平山地区にたくさん遊びに来てほしいのか、地区の人口が増えてほしいのかどちらか。

(事務局) 最初から移住定住につなげるのは難しいと考えているため、協力者など関係人口が増えていく中で、その中から移住したい人が増えてくると良いと考えている。

(委員) 観光などでふらっと立ち寄ることもイメージしているか。例えば、車のある方は行けるが、車の無い方がどうやってその場所まで行くのか。そういったことも考えておくといろんな人に来ていただけたらと思う。

(事務局) この場所に移住してもらえることが最終目的である。移動手段の無い方は難しいと考えている。

(委員) 平山地区の取り組みは、釜戸町の他地区にも良い影響を与えている。まちづくりの会議に参加されて取り組み内容を発表していただけており、若者が集まっていることをアピールしてもらっている。特に平山地区には野球ができるほどの広いグラウンドがあり、公民館も非常に良い集会場で、グラウンドゴルフやマージャンを盛んにやってみえる元気な高齢者が多い。そんな高齢者をどのように巻き込んでいっているのか。リーダーを作らない意図は何かあるのか。

(市民) グラウンドゴルフやマージャンをやってみえた高齢者はかなり高齢となり、現在はやってみえない。今はマコモダケの田植えに参加されるので、そこで学生と交流してみえる状況であり、できる範囲でと考えている。リーダーについては、ヤマカツは3人で始めており、リーダーや会計など役割を決めることを敢えてしない。その方が無理をせずにできると考えており、今後、必要な時期が来るかもしれないが、今のところは現状でやっていきたい。

(委員) 平山地区は29世帯ということで、今回の取り組みは29世帯全員に周知しているのか。

(市民) 平山地区では、毎月28日に全世帯が集まって会議をしている。そこでは、釜戸町の区長会や市の会議等での内容を共有している。この岐阜大学との取り組みも全世帯に周知したので進めることができたと考えている。

4) グループワーク

大学等との連携事業

1 グループ

感想、特に評価すべき点

- ・他地区への影響力がすごい
- ・飯地商店をお手本にしているのはありがたい（飯地町民として）
- ・影響のよい広がり
- ・同じような集落の見本となる
- ・大学のハードルを下げたこと⇒交流しやすく
- ・大学生と住民の方との交流
- ・ひとつの自治会がやっているのはすばらしい
- ・高齢者住民が多い中、月1の集合は活動的
- ・これまでの取り組みを活かしているところがすごい

- ・「山活」3名からのスタート 和・ワ・輪ができてすごい
- ・これから先がとても楽しみ

改善点や不足すること(市民側)

- ・他地区の移住定住組織との連携を
- ・移住者を受け入れようという取り組みをする気持ちはあるのでしょうか？
- ・関係人口⇒移住とは必ずしもならない
- ・卒業されていく学生さんとはどのような連携を取っているか また取れるのか
- ・今後の情報発信は誰がするのか
- ・せっかくなのでPRを!!
- ・ナイトマーケット出店は良い 反応はどうだった？
- ・地域の団結がある もっとPRして欲しい
- ・フューチャーセンターに出席する地域の方はいつも同じ？
- ・どういう人をターゲットに、その人に何をしてほしいのか あいまい？

改善点や不足すること(行政側)

- ・大学へのニーズ等の情報共有
- ・域学連携の継続を

2 グループ

感想、特に評価すべき点

- ・地域活性のための連携は評価できる
- ・他団体と連携してのまちづくり
- ・継続しているところがすごい(地道な)
- ・地域が一体となっていることが良い
- ・町内の他地区にも良い影響を伝えていることが良い
- ・地区の将来を見据えた計画
- ・小さな地区であっても広がっていく活動
- ・無理な活動になっていないこと
- ・学生を主体に考えているのが良い
- ・学生の意見を尊重!!学生主体!!
- ・インスタ!!すばらしい
- ・自治会単位との連携は具体性が期待できる

改善点や不足すること(市民側)

- ・大学との連携は継続できるのか
- ・学生の変動がある どうつなげていくか！
- ・市民が魅力を発信
- ・市民が魅力を感じる
- ・住みたいと思う地区の要件を考える
- ・動画 公式LINE (ビジネス) の使用

- ・PR媒体の英語表記
- ・PRをアナログな人にも伝わる案内板があると良い（19号から）
- ・成果を広げる努力をしてほしい

改善点や不足すること（行政側）

- ・企業、市民との連携が必要
- ・市としてどのように関わっていくのか？
- ・予算面でのサポートができるとよい
- ・地区PRをもっと積極的に
- ・市内にも広報し平山地区をアピールしてほしい
- ・外部だけでなく市内の人にもこの取り組みをPRすべき
- ・行政の支援は？ PR

グループ分けの結果の意見まとめ

→少しずつではあるが継続的に3年間地域と大学との橋渡しを行い、地域課題の解決に取り組んでいることは評価できる。とりわけ大学といった、一見大変難しい研究の園とイメージされる組織との協働について、瑞浪市の中でも規模の小さな単位自治会との活動を無理のない範囲で具体的な取り組みを行っている点は、若者との協働による地域の活性化といった点について、他地区でも地域の規模の大小にかかわらず、同様に変化を起こすことができるという希望になりうる。

しかし、まだ地域全体での活動と評価できるまでには拡大しておらず、地域側の移住者や関係人口についての意識やターゲット層の明確化といった点にまでは至っていない。そこで、これまでの成果やこれから見据える方向性を関係者以外の地域住民全体に広げる努力をしてほしい。

また、この活動についての瑞浪市全体・市外へもPRをもっとしていくべきであり、大学との協働を学生が卒業していったとしても継続的に活動を広げていけるよう、予算的な措置も期待するところである。そのためにも大学側、地域側と継続して密に連携を取っていただきたい。

3. 閉会のことば

みずなみ未来部長より閉会のことば